

■ドイツ：脱原子力政策により電気料金が上昇する見通し

2011年7月29日の報道によると、ドイツ政府は脱原子力政策によるエネルギー転換の影響により最終需要家の電気料金が短期的には0.5～1.5ユーロセント/kWh上昇する試算をしている。また長期的には、ラインウェストファーレン経済研究所（RWI）が再生可能エネルギー、特に大規模な太陽光発電設備の拡張によって電気料金は最大5.0ユーロセント/kWh上昇するという見込みを示している。これによれば年間3,500kWh使用する一般的な家庭の場合、電気料金支払額は年間175ユーロ上昇し、1カ月あたりでは14.6ユーロ上昇の見込みである。ドイツ誌が4月に行ったアンケートでは、ドイツ国内では原子力以外の電源で発電された電力を選択する場合、その際のコストは1カ月あたり10ユーロ上乗せが上限であると回答した需要家が最も多かったという。